

鷲羽岳2924m・水晶岳2986m

【山行日】 2014年8月31日～9月3日

【集合場所】 お迎え構築、仙石宅4:00

【交通・費用】 車1台:42,000円

【メンバー】 CL 仙石、大町、清水、山田

8月31日 鏡平山荘まで

【コースタイム】仙石宅 4:00＝大町宅＝佐野藤岡 IC＝北関東道＝上信越道＝松本 IC＝新穂高温泉無料駐車場 9:10～40—登山指導所 9:55—ワサビ平小屋 11:22～40—登山口 11:57—秩父沢 13:00—シシウドヶ原 14:30—鏡平山荘 15:30

きょうから4日間の天候を案じながら、新穂高温泉駐車場に到着。登山届を提出し、心おどる思いで今夜の宿、鏡平小屋を目指す。わさび平へ向かうゲートを通り蒲田川左俣林道を行くと左側に笠ヶ岳の穴毛谷の荒々しい谷が見えて来た。

途中、笠新道登山口の水場で小休止。そしてわさび平小屋で昼食を摂る。小屋から約20分で鏡平への登山口があり、小池新道に入っていく。沢の



流れに沿って石段のキツイ登りが始まる。シシウドヶ原では、シシウドの群生があり白い花が一面に咲いていた。木イチゴ、クロマメ（ベリー）を摘みながら、急登石段を1時間20分登ると木道となり鏡池の畔に出る。池の水面に映るはずの逆さ槍はガスの中で眺めることができなかった。

さらに木道を進むと鏡平小屋に到着。混んでいる時期は10人で使う部屋を4人でゆったり使用。夕食も豪華で美味しかった。（大町）

9月1日 三俣山荘まで

【コースタイム】

鏡平山荘 6:00—弓折乗越 7:20～30—双六小屋 8:57～9:17—双六岳 10:45～58—三俣蓮華岳 12:40～13:00—三俣山荘 13:50

4時起床、天気よし、槍、穂高連峰が荘厳な姿を見せている。昨日見られなかった逆さ槍を見て6時出発。点在する池を過ぎると登りが始まる。お花畑と槍、穂高連峰の景色に魅了され、なかなか歩足が進まない。弓折乗越に到着。ベンチに腰をおろし、槍、穂高の素晴らしい眺めに酔いしれる。これから先は稜線歩きとなる。花見平のお花畑を通過し、右前方に雄大な西鎌尾根の稜線が見え、槍、穂高と眺めのよい楽しいコースだ。



やがて左に双六岳、正面に双六池と小屋が見える。お花畑の広がる畔を回りこんで双六小屋に到着。鷲羽岳がガスの中に少し姿を見せている。午後から雨予報だが、天気が持ちそうなので双六岳へ向かう。お花畑が続くキツイ登りを行くとやがてハイマツ帯の稜線に出る。晴れていると

360度の素晴らしい景色が見られるところだが、ガスのため視界はよくない。双六岳山頂近くではライチョウに出会う。三俣蓮華岳へ向かう山頂までの稜線は雪渓とお花畑の連続で楽しいコースだ。

山頂に到着した時にはガスも晴れ、360度の絶景が待っていた。水晶岳、鷲羽岳、爺ヶ岳、黒部源流、笠ヶ岳、槍、穂高、眼下には今宵の宿、赤い屋根の三俣山荘が見える。

小屋に到着して宿泊手続きをしていると突然雨が降り出しタッチの差で濡れずにすんだ。今夜も小屋はすいており、ラッキーな眠りにつけた！！
(大町)

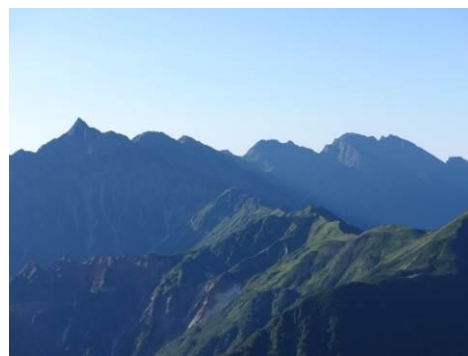
9月2日 鷲羽岳・水晶岳

【コースタイム】三俣山荘 5:45—鷲羽岳 7:30～7:40—ワリモ岳 8:25—ワリモ北分岐 8:43—水晶小屋 9:35～9:45—水晶岳 10:30～11:10—水晶小屋 11:47～11:55—岩苔乗越 12:40～12:43—黒部源流碑 13:50—三俣山荘 14:38

窓の外が、白み始めると、北鎌尾根から槍、穂高の山並みがシルエットで浮かんでいる。

余分な荷物を小屋にデポしてハイマツ帯の中をスタート。昨日三俣蓮華岳の尾根から眺めたほどの斜度はなく、比較的歩きやすい。ほどなく、大きな石の積み重なったガレ場に出ると、やっと親離れしたようなライチョウが2羽、私たちを警戒する様子もなくチョココンと岩の上で休んでいる。思わずシャッターをカチャリ。やがて、眼下にコバルトブルーの鷲羽池が、その向こうにはうっすらと富士山が見えている。小屋から2時間程で鷲羽岳山頂に到着。4人で万歳三唱をしたが、まだ先は長い。

山頂からは、東、北、西の槍につづく全部の尾根が見えている。



ワリモ岳から分岐を抜け水晶小屋までは2時間ほどだが絶景に圧倒され、涙が出てくる。去年3人で歩いたルートがハッキリと見えて、去年の感動がよみがえってきた。

水晶小屋は20～30人収容のこじんまりとした小屋だが、北穂の小屋のようにこぼれ落ちそうな崖の上に建っていて、ここからは読売新道の先に黒部湖を望むことができる。

水晶小屋からは狭い岩の道、岩壁をよじ登りはしごを上り40分程で山頂到着。他に登山客が1人しかなく、足場の悪い、狭

い山頂で絶景をおかずにしての昼食は幸せのひとつ。でも何時までも感激に浸っているわけにも行かず、来た道をワリモ分岐まで戻り、岩苔乗越から黒部源流へと下る。黒部の冷たい水でのどを潤すとそこには、そこかしこに熊のフンらしきモノがおちている。カサコソ音がするたびにビビリながら、沢と山の花の中を小屋まで戻り、O町さんの古稀のお祝いと、北アルプスのど真ん中を歩けたことに感謝をして、朝登った鷲羽岳を眺めながら乾杯をした。

今回の山行では、天気にも恵まれ、4人の気持ちが一つになり、リーダーと共に楽しめたことはこの夏いちばんの収穫です。皆さん有難うございました。
(清水敬)



9月3日 下山

【コースタイム】三俣山荘 5:00—巻道分岐 5:53—巻道ルート—双六小屋 7:45～7:55—弓折乗越 9:15～9:30—鏡平山荘 10:07～10:15—シシウドヶ原 10:50～10:57—秩父沢 11:50—登山口 12:40—ワサビ平小屋 12:57～13:02—新穂高温泉登山指導所 14:00—駐車場 14:30＝

沢渡温泉(入浴)=松本IC=上信越道=北関東道=佐野藤岡IC=小山 20:00

水晶岳・鷲羽岳4日間の最終日。連泊していた三俣山荘を5時に出発。まだ、辺りは薄暗く夜が明けていなかったが、歩き始めると東から空が赤くなりご来光が見えはじめた。槍ヶ岳もよく見え、天気の良い中、山行を開始する。今日は、昨日登った鷲羽岳を何度も振り返りながらの下山。鷲羽岳の凛とした姿はやはり鳥の王者の名のつく山であり、どの角度から眺めても素晴らしい自然の景色であった。



ザックの中に乗鞍、焼岳、槍ヶ岳、黒部五郎岳、笠ヶ岳、白山、薬師岳、白馬岳、五竜岳、祖父岳など北アルプスの山々と高山植物の数々で4日間の思い出をいっぱい詰めて、双六小屋まで戻る。遠くには、鷲羽岳が見え、弓折岳、鏡平小屋、秩父沢と長い道を降り、今回の登山を終えた。

仙石さん、大町さん、清水(敬)さん本当にありがとうございました。とても楽しい山行の時間でした。

(山田)